

- 問1 明治時代の日本の政治動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- 板垣退助が国際連盟からの脱退を宣言し、日本の国際的な孤立を深めるきっかけを作った。
 - 大隈重信が立憲改進黨を結成し、議院内閣制の導入などを主張して自由民権運動を推進した。
 - 政府が金融恐慌への対策として、大隈重信を首班とする立憲政友会内閣を組織した。
 - 都市部の実業家の支持を受けた大隈重信が、治安維持法を制定して民権運動を厳しく取り締まった。
- 問2 1894年に起きた日清戦争の直接的なきっかけとなった出来事について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- 豊臣秀吉が明の征服を目指して朝鮮へ軍を進め、それを阻止しようとした清の軍隊と衝突したこと。
 - ロシアが朝鮮半島の凍らない港（不凍港）を求めて南下し、日本と清が共同でこれに抗議したこと。
 - 朝鮮半島で減税や排外主義を掲げる甲午農民戦争が起き、その鎮圧のために日清両軍が朝鮮へ出兵したこと。
 - イギリスが清に対してアヘンの輸出を強行し、これに反発した清が日本に軍事援助を求めたこと。
- 問3 日露戦争の講和会議において、日本側が日清戦争の時とは異なり獲得することができず、当時の国民が激しく反発する最大の要因となったものは何か、次の中から選びなさい。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
- 南満州の鉄道利権
 - 領土の割譲
 - 韓国に対する指導監督権
 - 賠償金
- 問4 1889年に発布された大日本帝国憲法に基づき設置された、日本の初期の立法機関について、その構成として正しいものはどれですか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
- 参議院と衆議院の二院制
 - 皇族や華族などから成る貴族院と、選挙によって選ばれた議員から成る衆議院の二院制
 - 国会期成同盟を中心とした一院制
 - 大政翼賛会に統合された全国民代表による一院制
- 問5 1895年に結ばれた日清戦争の講和条約である下関条約において、一度は日本への割譲が決定したものの、その直後にロシア・ドイツ・フランスによる強い要求を受け、清に返還することになった地域はどこですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
- 台湾
 - 遼東半島
 - 澎湖諸島
 - 千島列島
- 問6 19世紀末から20世紀初頭にかけての日本において、近代医学の発展に大きく貢献した人物について述べます。ドイツへ留学してコッホに師事し、世界で初めて破傷風の血清療法を確立したほか、香港で調査を行いペスト菌を発見した人物は誰ですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- 志賀潔
 - 北里柴三郎
 - 野口英世
 - 高木兼寛
- 問7 自由民権運動が活発化する中で、1881年に国会開設が約束されると、将来の議会政治に備えて複数の政党が誕生しました。大隈重信が結成した立憲改進黨の説明として、その思想的特徴や支持層を正しく述べているものはどれですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
- 労働者の権利向上を目指し、日本で最初の社会主義政党として都市の労働者から支持された。
 - イギリス流の立憲政治を理想とし、都市の知識層や実業家から主に支持された。
 - 政府の方針を全面的に支持する立場をとり、官僚や地方官吏から主に支持された。
 - フランス流の急進的な民主主義を理想とし、農村の地主や農民から主に支持された。
- 問8 日本の紙幣（一万円札）の肖像としても長く親しまれた人物について述べた次の文のうち、その人物の思想や行動として最も適切なものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
- 内閣総理大臣として、国民の支持を背景に日本で最初の本格的な政党内閣を組織した。
 - 江戸幕府の最後の将軍として、政権を朝廷に返す大政奉還を決断した。
 - 外務大臣として、日清戦争後に結ばれた下関条約の交渉や調印にあたった。
 - 慶應義塾を創設し、西洋事情を紹介することで日本人の近代的な考え方を育もうとした。
- 問9 1873年に朝鮮への使節派遣をめぐる「征韓論」の対立で大久保利通らと意見が合わず、政府を去った板垣退助が、1874年に政府へ提出した書面について述べた文として正しいものはどれですか。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
- 欧米の進んだ制度を取り入れるため、岩倉具視を代表とする使節団の派遣を求めた建議書
 - 武士の特権を廃止し、国民に兵役の義務を課すことを求めた徴兵告諭
 - 天皇を中心とした中央集権体制を確立するため、藩を廃止して県を置くことを求めた廃藩置県令
 - 藩閥政治を批判し、国民が選んだ議員による議会の開設を強く求めた民撰議院設立建白書
- 問10 三国干渉が起こった背景と、その後の日本国内の動向についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)
- ドイツが清の領土保全を強く訴えたことで国際世論が日本に厳しくなった。日本はこれを受け入れ、ロシアとの協調外交を最優先するようになった。
 - ロシアは自国の南下政策を有利に進めるため日本に圧力をかけた。日本国内ではこの屈辱を忘れぬよう「臥薪嘗胆」を合言葉にロシアへの対抗心を強めた。
 - フランスが日本と清の仲裁を行い、遼東半島の返還と引き換えに多額の追加賠償金を得るよう助言した。これにより日本の財政は急速に潤った。
 - アメリカが東アジアの門戸開放を求めて3カ国を主導した。日本はイギリスの軍事支援を期待して要求を拒否し、即座にロシアとの戦争を開始した。
- 問11 明治時代後半、日本は長年の課題であった不平等条約の改正を完了させました。1911年に、アメリカなどの諸国との交渉を通じて関税自主権の完全な回復を成し遂げた外務大臣は誰ですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
- 大隈重信
 - 陸奥宗光
 - 小村寿太郎
 - 井上馨
- 問12 近代の人権思想の高まりを背景に、多くの国で奴隷制の廃止が行われました。しかし、制度の廃止後もなお続けられた「差別改善」の取り組みの目的について述べたものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2025年 静岡県公立入試 類似)
- 海外との貿易を有利に進めるため、国際社会からの批判をかわす目的で形式的な制度変更のみを行うため
 - 奴隷制は廃止されたものの、なお社会に残存していた不当な扱いや格差などの差別的な状況を正すため
 - 経済的な自立を促すという名目で、国による公的な扶助を打ち切り、自己責任による社会進出を強制するため
 - 特定の層の既得権を守るために、人種や身分による居住区の分離を法的に正当化するため
- 問13 明治時代後半から大正時代にかけて、義務教育制度の整備により就学率が大幅に上昇したことは、後の日本の文化にどのような影響を与えたか。当時の出版文化の状況を踏まえた説明として最も適切なものを選んでください。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
- 高度経済成長期の到来を背景に、テレビやラジオが普及したことで、活字による情報伝達は衰退し、出版不況が深刻化した。
 - 義務教育の普及によって伝統的な仏教文化への関心が高まり、都市部を中心に寺子屋での教育が再び盛んになった。
 - 国民の識字率が向上したことで、新聞の発行部数が飛躍的に伸び、1冊1円という安価な「円本」が普及するなど大衆文化が発展した。
 - 文字を読める層が限られていたため、政府は国民に情報を伝える手段として、浮世絵やかわら版を主な広報媒体として利用し続けた。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 大隈重信が立憲改進黨を結成し、議院内閣制の導入などを主張して自由民権運動を推進した。	大隈重信は佐賀藩の出身で、明治政府の要職を務めた後、立憲改進黨を組織して政党政治の確立に尽力しました。選択肢にある「国際連盟からの脱退」や「金融恐慌」は、大正末期から昭和時代にかけての出来事であり、明治時代の自由民権運動の文脈とは異なります。また、大隈重信は民権運動を推進する立場であり、取り締まりを主導したわけではありません。
問2	答え 3 朝鮮半島で減税や排外主義を掲げる甲午農民戦争が起き、その鎮圧のために日清両軍が朝鮮へ出兵したこと。	朝鮮半島で東学という宗教を信じる農民らが「民衆の救済」と「外国勢力の排除」を求めて甲午農民戦争（東学党の乱）を起こすと、朝鮮政府は清に援軍を求めました。日本もこれに対抗して出兵し、農民軍が政府と和解した後も両軍は撤退せず、朝鮮の主導権をめぐって日清戦争へと発展しました。
問3	答え 4 賠償金	日清戦争後の下関条約では、当時の国家予算の数倍にあたる多額の賠償金を得ることができましたが、日露戦争を終結させたポーツマス条約では、ロシアから賠償金を得ることができませんでした。日本は17億円を超える膨大な戦費を投じ、国民は増税や献金に耐えて戦争を支えていたため、金銭的な補償が全く得られなかったことは国民に大きな失望を与えました。これが講和条約に対する激しい反対運動へとつながりました。
問4	答え 2 皇族や華族などから成る貴族院と、選挙によって選ばれた議員から成る衆議院の二院制	大日本帝国憲法下の帝国議会は、貴族院と衆議院から構成される二院制を採用していました。衆議院議員は選挙によって選ばれましたが、貴族院議員は皇族、華族、勅任議員などによって構成されており、解散がないなど衆議院とは異なる性質を持っていました。
問5	答え 2 遼東半島	下関条約によって日本は遼東半島、台湾、澎湖諸島を領有することになりました。しかし、東アジアへの進出を狙っていたロシアがドイツ・フランスを誘って日本に圧力をかけた「三国干涉」により、日本は遼東半島の領有を断念し、清に返還しました。
問6	答え 2 北里柴三郎	ドイツ留学中に破傷風菌の純粋培養に成功し、その毒素に対する抗体を用いた血清療法を開発した人物です。帰国後は福澤諭吉らの支援を受けて伝染病研究所を設立し、日本の公衆衛生の向上に尽力しました。2024年からは新千円紙幣の肖像としても知られています。
問7	答え 2 イギリス流の立憲政治を理想とし、都市の知識層や実業家から主に支持された。	立憲改進黨は、イギリス型の議院内閣制をモデルとした穏健な立憲政治を目指しました。そのため、都市部の知識人や実業家、あるいは慶應義塾出身者などに支持者が多かったのが特徴です。一方、選択肢にあるフランス流の思想を背景に農村部で支持を広げたのは板垣退助の「自由党」であり、これら二党の性格の違いは入試で非常によく問われます。
問8	答え 4 慶應義塾を創設し、西洋事情を紹介することで日本人の近代的な考え方を育もうとした。	一万円札の肖像であった福沢諭吉は、単に知識を広めるだけでなく、教育機関の創設を通じて次代のリーダー育成にも尽力しました。彼は個人の独立が国の独立の基礎であると考え、自由主義や合理主義に基づく欧米の思想を日本に定着させようとしてしました。政治家として直接的に政権を運営したり、外交交渉の最前線に立ちたりした人物とは、役割が異なります。
問9	答え 4 藩閥政治を批判し、国民が選んだ議員による議会の開設を強く求めた民撰議院設立建白書	明治政府内で実権を握っていた一部の藩（薩摩・長州など）による藩閥政治を批判し、国民の意見を政治に反映させるために国会の開設を求めたものです。この建白書の提出が、のちの自由民権運動の出発点となりました。
問10	答え 2 ロシアは自国の南下政策を有利に進めるため日本に圧力をかけた。日本国内ではこの屈辱を忘れぬよう「臥薪嘗胆」を合言葉にロシアへの対抗心を強めた。	ロシアは不凍港を求めて南下政策を推進しており、遼東半島を日本が領有することを強く警戒してドイツ・フランスを誘い干渉を行いました。当時の日本には列強3カ国を相手に戦う力はなかったため要求を飲みましたが、国民の間ではロシアに対する強い反感が生じ、「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」をスローガンに軍備拡張が進められ、のちの日露戦争へとつながる要因となりました。
問11	答え 3 小村寿太郎	日露戦争後の1911年、外務大臣の小村寿太郎は、諸外国との交渉によって関税自主権の回復を成し遂げました。これにより、江戸時代末期から続いていた不平等条約が完全に解消されました。1894年に領事裁判権（治外法権）の撤廃を実現した陸奥宗光と混同しないよう注意が必要です。
問12	答え 2 奴隷制は廃止されたものの、なお社会に残存していた不当な扱いや格差などの差別的な状況を正すため	人権思想の広がりにより、19世紀には多くの国で奴隷制が禁止されました。しかし、現実には教育、就労、参政権などの面で激しい差別が残り、社会的な格差が固定化されるという課題がありました。差別改善の目的は、こうした現実に残る不平等を解消し、人権が実質的に守られる社会を築くことにあります。
問13	答え 3 国民の識字率が向上したことで、新聞の発行部数が飛躍的に伸び、1冊1円という安価な「円本」が普及するなど大衆文化が発展した。	明治政府が六歳以上の児童に義務教育を課し、明治末期には就学率が90%を大きく超えるまでになりました。この教育の普及により、文字を読み書きできる国民が急増したことが、大正から昭和初期にかけての新聞の百万部突破や、安価な全集である「円本」の流行といった、大衆が主役となる近代文化の形成につながりました。